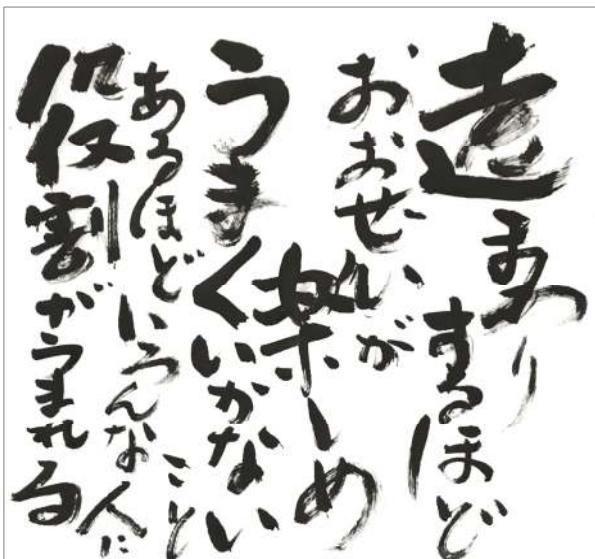


平成 29 年 2 月 12 日（日）に日本福祉大学名古屋キャンパスで開催される、「福祉開発マネジャーが目指す地域課題解決のための学びセミナー」で、市長が基調講演を行うことになりました。講演に先立ち、日本福祉大学の平野隆之副学長と事前打合せを行った際に、市長が話された内容です。

遠回りすること、ゆっくりすること

市長としていろいろと取り組んできましたが、ようやく最近になって、市民主体のまちづくりがなかなか進まない理由が見えてきたように思います。

私はよく、市民と一緒にいることは、遠回りすること、ゆっくり進めることが大切だという話をします。以前にも、時間をかけてやれという市長の指示と、早くやれという上司の指示の間で悩んでいる職員に、なぜ「遠回りすればするほど大勢が楽しめ、うまくいかないことがあればあるほどいろんな人に役割がうまれる」のかという話をしました。



今の社会は時間や心のゆとりがないのです。教育の現場でも学校の先生は多忙で、子どもたちとゆっくり話し合う時間を取りにくい状況となっています。この問題に切り込んで、遠回りしよう、ゆっくりやろうと主張する人は誰もいません。もしかしたら遠回りしてゆっくりやることをみなさんが真剣に考えると、日本の仕組みが変わるかもしれません。営利を目的とし、激しい競争にさらされている民間企業では、ゆっくりしてはいられませんが、まちづくりは違います。時間や心のゆとりを持って、大勢の人たちが関わって議論していかなければいけないのです。

市が作ろうとしている構想や計画は、8年前に作られた「総合計画」に書いてあるという根拠で計画づくり等がスタートし、職員は日常業務で忙しいので、コンサルタント会社を雇い、年度末に完成させなければいけないので、大勢による議論が十分されないまま計画を完成させてしまうというのが現状でした。これでは、市民のための良い計画ができる訳がありません。もちろん、すぐに仕上げねばならないものもあるでしょう。しかし、「ゆっくり遠回りする仕組み」も作らないと、すぐに結果を得られることのみ手を付け、困難な課題を避けて物事を進めてしまうかもしれません。すぐに結果が出ないところに、本当のニーズがあるかもしれないのに・・・。

かつて私は、子どもたちにもっとゆっくりと暮らしてほしいという理念から幼稚園を作りました。ゆっくり遠回りすることを行政の仕組みとして直ちに組み込んでいくのはなかなか難しいです。しかし、私はこの理念を市全体に広げていき、長久手から、ゆっくり遠回りすることの大切さを全国に広めていきたいと考えています。

～市長の話を聞いて～

自分もふだんの仕事をこなすとき、忙しさにかまけて目の前の書類を処理することに集中しすぎてしまい、良い仕事をしているのか、市民のためになっているのかといったことを意識せずに仕事を進めてしまいます。まちづくりのような市民生活につながる仕事は、効率よく処理する前に一度立ち止まって、市民の生活が本当に幸せになるのだろうかと考えなければいけないのだと気づかされました。市長が話されるように、あえてゆっくり遠回りしてみて、時間や心のゆとりを持って臨みたいと思います。